

今日のトピック 米国株式 企業規模別の動向

堅調な業績が続くなか、中小型株の利益が加速見込み

ポイント1 中小型株は足元で上値が重い

好調な業績を先取り

- 前四半期末(6月末)から8月末の企業規模別の株価指数(配当などを含むトータルリターン)を見ると、大型株(S&P500指数)が+2.6%、中型株(S&P400指数)が+0.6%、小型株(S&P600指数)が▲1.4%となり、中小型株の上値が重い展開です。
- リーマン・ショック(2008年9月)後を見ると、株価の底値(四半期ベースでは2009年1-3月期)からのパフォーマンスは、中小型株が大型株を上回っています。好調な業績を先取りし上昇した後、足元ではその調整が進んでいると見られます。

ポイント2 中小型株の収益は加速へ

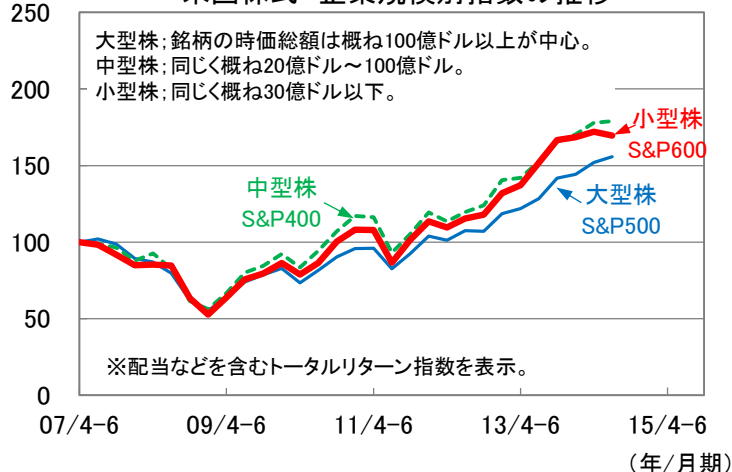
米国と世界経済の成長加速が背景

- 各指数ベースの利益は、米国内外の景気回復に沿って順調に拡大しています。2015年に向けて、特に中小型株の利益が大きく加速する見込みです。2015年通年の増益率予想は、大型株が前年比+11%、中型株が同+15%、小型株が同+23%といずれも堅調な中で、小型株の増勢が際立っています。
- 米国や中国をはじめ、世界景気が緩やかに回復する見通しが、好調な増益見通しの背景にあります。世界的な低金利見通しや主要国政府の景気刺激策も、好調な利益見通しを支えています。

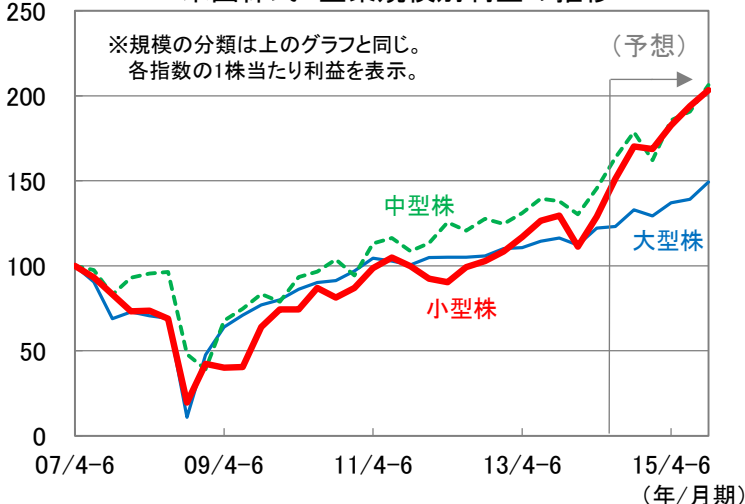
今後の展開 中小型株の利益成長を再評価する展開へ

- 2014年通年の利益予想に基づく株価収益率(PER)は、大型株が17倍、中型株が21倍、小型株が22倍と、中小型株がやや高くなっています。当面は、こうした株価評価(割高割安)指標の格差が、中小型株の上値を抑える材料になりそうです。

(ポイント) 米国株式 企業規模別指数の推移



(ポイント) 米国株式 企業規模別利益の推移



(注) 上グラフの期間は2007年4-6月期~2014年7-9月期の期末値。ただし、2014年7-9月期は8月末。下グラフの期間は2007年4-6月期~2015年10-12月期。2014年7-9月期以降はBloomberg L.P.の予想。いずれも、2007年4-6月期を100として指数化。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- ただし、PERを、2015年の増益率あたりで見ると、大型株が1.5倍、中型株が1.3倍、小型株が0.9倍と、利益の成長率を加味した場合には株価評価が逆転します。米国をはじめ世界経済の成長見通しの確度が高まれば、中小型株の利益成長が再評価される展開となることが期待されます。

ここも チェック!

2014年09月03日【キーワード No.1,406】米国の雇用統計(米国)

2014年08月27日【デイリー No.1,941】最近の指標から見る米国経済(2014年8月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。